

実習「服飾造形」におけるアクティブラーニングの 成果の向上を目指して

—5分間の挑戦—

Toward an Effective Achievement of Active Learning in the Dress Making Course: 5-Minute Boosters to Raise Students' Interest in Dressmaking

服飾美術学科 杉野 公子

1. はじめに

本学で開講されている実習「服飾造形」は、履修者が作品製作を行なうために、アクティブラーニング科目とされている。しかし、初めて洋服を製作する学生には洋裁の技術を伝えることが多く、教員から学生へ一方的な解説を行なわざるをえない部分がある。また、履修者の中には教員免許取得のために履修する者も多く、「服飾造形」を積極的に履修したくはないと思っている学生も存在する。履修者が自ら学ぶ姿勢をより高めるには、履修者が洋裁に対して興味・関心を持つことが重要であると考えた。実験的に、課題とするアイテムに関わらず幅広い洋裁の内容について、各実習の冒頭に5分くらいの「小話」をすることにした。その結果、履修者が洋裁に興味・関心を持ち、アクティブラーニングの成果の向上にもつながると考えた。



図1 「服飾造形Ⅰ」の様子

2. 方法

筆者が担当している服飾造形Ⅰ（1年後期開講：必修科目）・服飾造形Ⅲ（2年後期開講：選択科目）の冒頭に、洋裁に関連のある内容を5分程度で、PowerPointによるスライド（以下、スライドと呼ぶ）を用いて画像を流しながら説明を行なった。（図2）。実施期間は平成28年度後期（全14回）。

- ①ユニバーサルファッションの聖地（アメリカと日本の店頭比較、取り扱いサイズの違い）
- ②インディアンの民族衣装（博物館の利用法）
- ③日本のファッションを牽引した人（ファッションジャーナリストという職業について）
- ④コレクション作品を読み解く（パターンの考察法）
- ⑤デザインと体型（着たい服と体型に合う服）
- ⑥素材のおもしろさ（素材からデザインを考える一例）
- ⑦服の持つ力を考える（元気を与える服、恐怖を和らげる服）
- ⑧べっぴんなスーツ（誰かのために丁寧につくることのすすめ）
- ⑨服における男女の違い（縫製方法）
- ⑩シャネルスーツとシャネル風スーツの違い（名称）
- ⑪おばあさんのスーツ（平面製図と立体的裁断）
- ⑫刺し子とその表現（既成の布に手を加えることで表現の幅が広がる一例）
- ⑬カットワークとヒートカッター（新しい手法の提案）
- ⑭針供養（服飾に関わる年中行事）。

服飾造形Ⅰ・Ⅲの最終日に、履修者にアンケート調査を実施し、分析を行なった。(アンケート実施73名、うち1名記入ミスにより、有効数72名)。アンケートの内容は、①14回行なった「小話」について。14回の内容を思い出しやすくするため、スライド画像・タイトル・内容を表にした(図3)。②小話全体の感想について(自由記述)、③今後聞きたい内容について、④「小話」の取り組みについて、とした。アンケートは、5段階評価(①思わない・②やや思わない・③どちらとも言えない・④やや思う・⑤思う等)で行なった。数値が上がるにしたがって肯定されたことを意味する。分析は、有効回答数72名を対象に、IBM社製統計解析ソフト SPSS Statistics 24.0を用いて行なった。



図2 「小話」の様子

小話に関するアンケート		興味・関心を持たなかった	あまり興味・関心を持たなかった	どちらとも言えない	やや興味・関心を持った	興味・関心を持った
1	ユニバーサルファッションの聖地(アメリカ) 日本とアメリカ店数比較(取り扱いサイズ)					
2	民族衣装(インディアン) 博物館利用方法について					
3	日本のファッションを牽引した人(織田長氏) ファッションはデザイナーだけで成り立っているのではない					
4	服づくりいろいろ②(コレクション作品を読み解く) 雑誌の利用方法					
5	服づくりいろいろ②(デザインと体型) 着たい服と体型にあう服について考える					

図3 アンケートの一部

3. 結果・考察

14回行なった「小話」のアンケートの5段階評価は、①興味・関心を持たなかった、②あまり興味・関心を持たなかった、③どちらとも言えない、④やや興味・関心を持った、⑤興味・関心を持ったの5段階評価とした。その中で、「興味・関心を持った」「やや興味・関心を持った」と回答した合計が80%を超えたのは、多い順に⑫刺し子とその表現(87%)、④コレクション作品を読み解く(86%)、⑤デザインと体型(82%)、⑥素材のおもしろさ(82%)、⑭針供養(81%)であった(図4～31)。「小話」に関するアンケートの自由記述欄には、「縫製方法だけでなく、いろいろな話が聞けて楽しかった」「教員が製作した作品を直接見たかった」「針供養に行こうと思った」「毎回、楽しみにしていた」等の意見があった。

<第1回>ユニバーサルファッションの聖地



図4 第1回スライドから抜粋

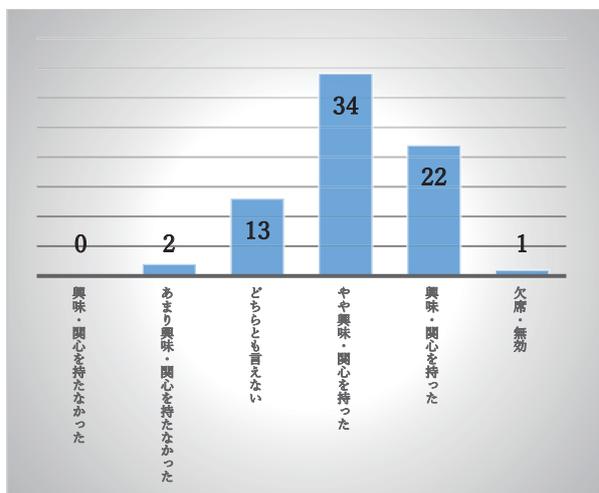


図5 第1回のアンケート回答結果(人数)

<第2回>インディアンの民族衣装



図6 第2回スライドから抜粋

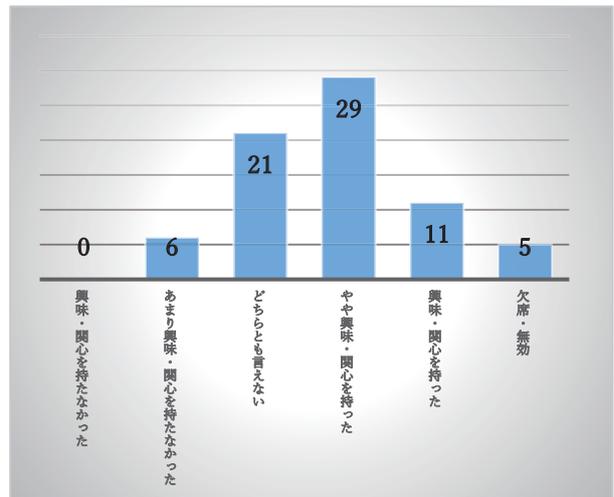


図7 第2回のアンケート回答結果(人数)

<第3回>日本のファッションを牽引した人

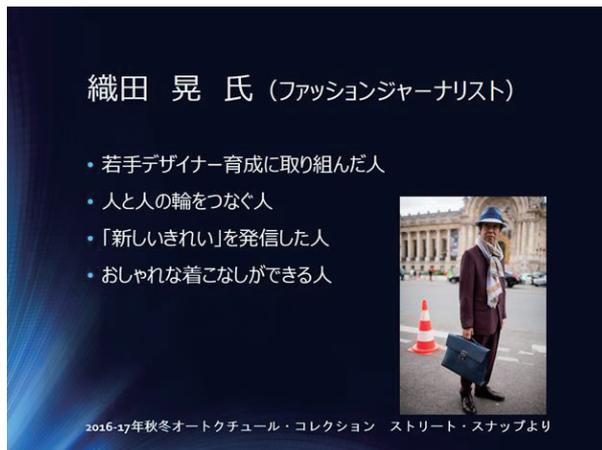


図8 第3回スライドから抜粋

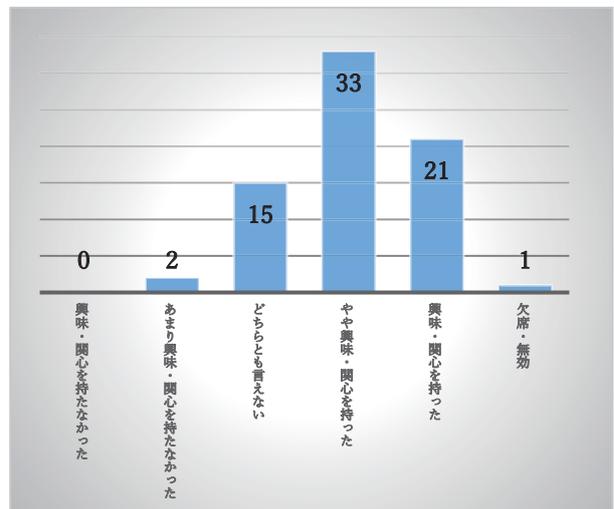


図9 第3回のアンケート回答結果(人数)

<第4回>コレクション作品を読み解く

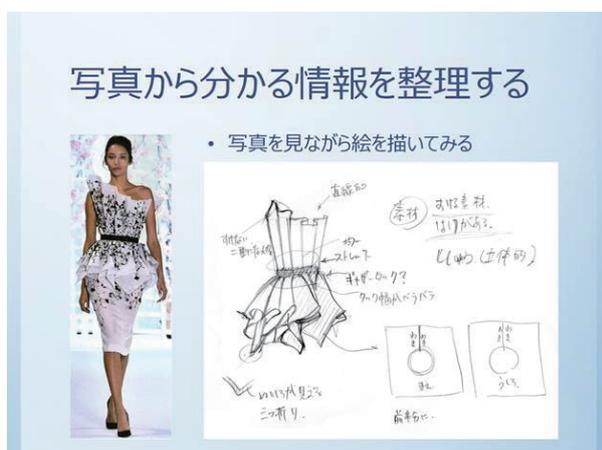


図10 第4回スライドから抜粋

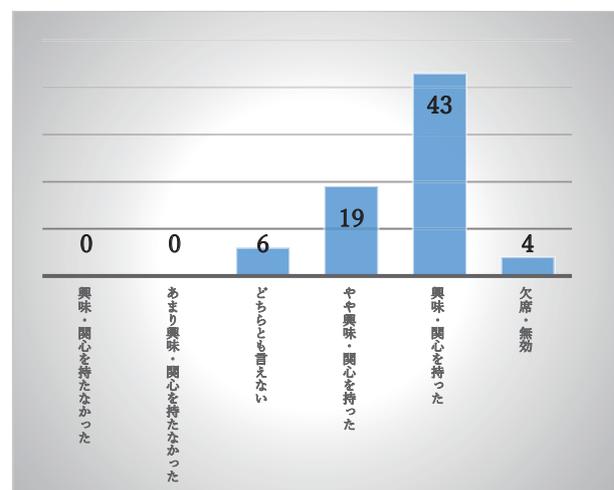


図11 第4回のアンケート回答結果(人数)

＜第5回＞デザインと体型



図12 第5回スライドから抜粋

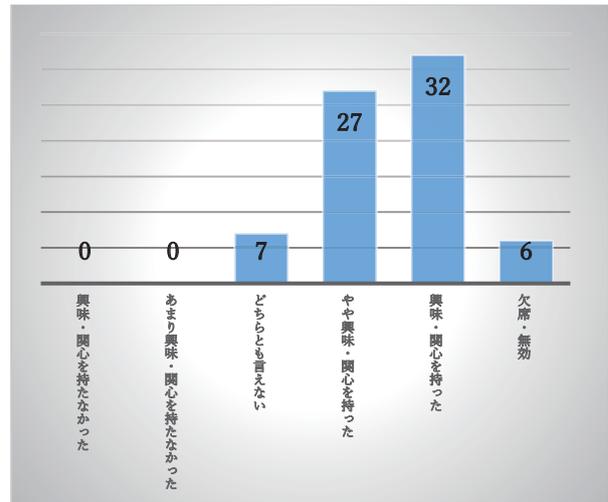


図13 第5回のアンケート回答結果(人数)

＜第6回＞素材のおもしろさ



図14 第6回スライドから抜粋

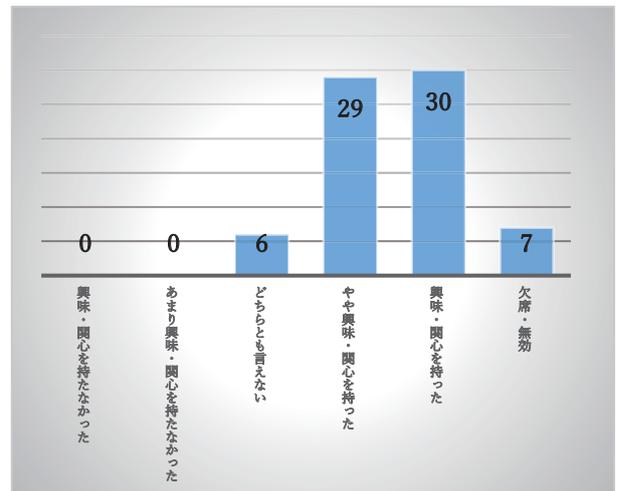


図15 第6回のアンケート回答結果(人数)

＜第7回＞服の持つ力を考える



図16 第7回スライドから抜粋

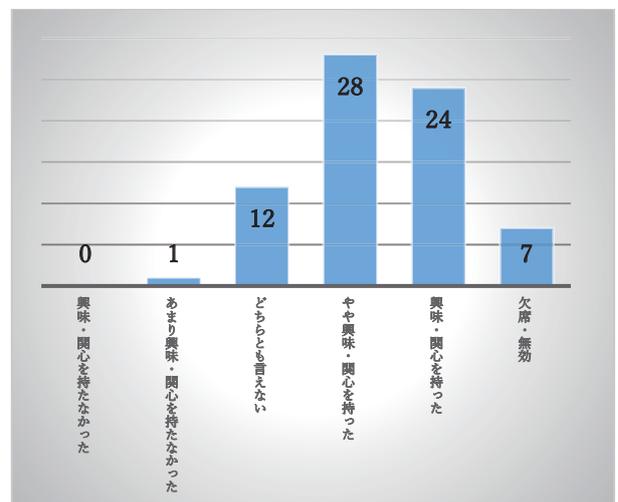


図17 第7回のアンケート回答結果(人数)

<第8回>べっぴんなスーツ

七五三スーツ

- 3歳の女の子が行なう「髪置きの儀」。江戸時代は、3歳までは髪を剃る習慣があったため、それを終了する儀。
- 5歳の男の子が行なう「袴儀」。男子が袴を着用し始める儀。
- 7歳の女の子が行なう「帯解きの儀」。女子が幅の広い大人と同じ帯を結び始める儀。



図18 第8回スライドから抜粋

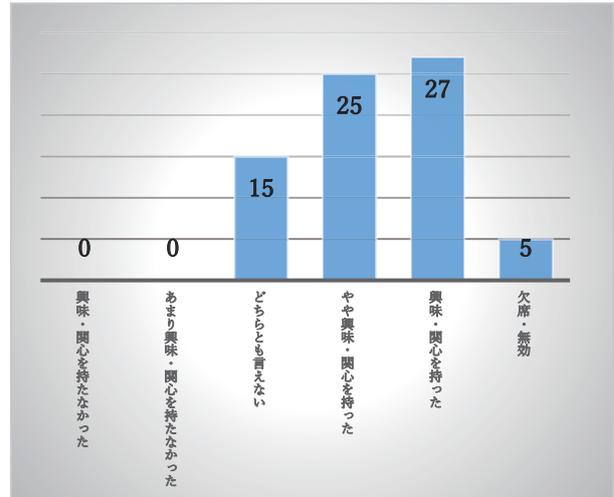


図19 第8回のアンケート回答結果 (人数)

<第9回>服における男女の違い

洋服における男女の違い (ジャケット)



洋服の青山HPより

図20 第9回スライドから抜粋

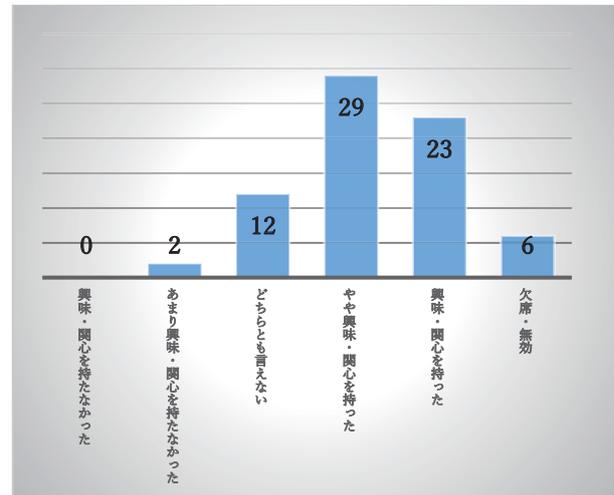


図21 第9回のアンケート回答結果 (人数)

<第10回>シャネルスーツとシャネル風スーツの違い

シャネルスーツ？ シャネル風スーツ？



シャネル 2016年 春夏コレクション Amazon Y1ショッピング Y1ショッピング

図22 第10回スライドから抜粋

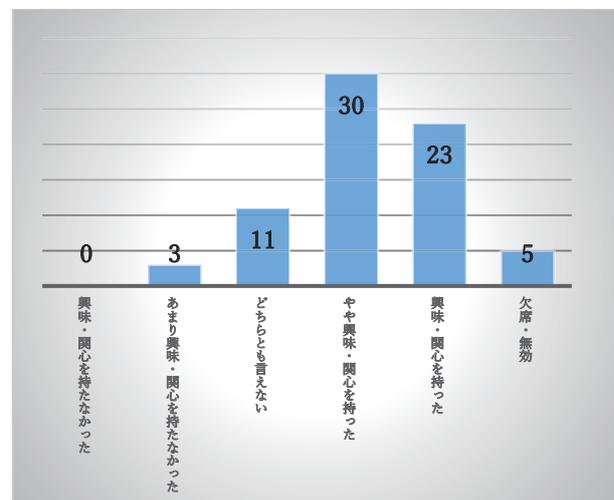


図23 第10回のアンケート回答結果 (人数)

<第11回>おばあさんのスーツ



図24 第11回スライドから抜粋

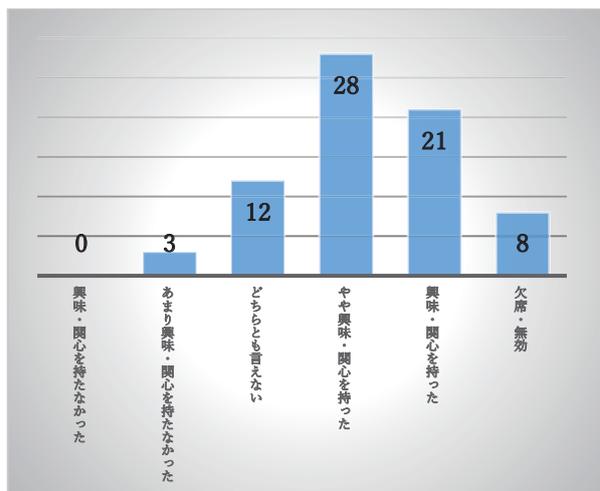


図25 第11回のアンケート回答結果(人数)

<第12回>刺し子とその表現



図26 第12回スライドから抜粋

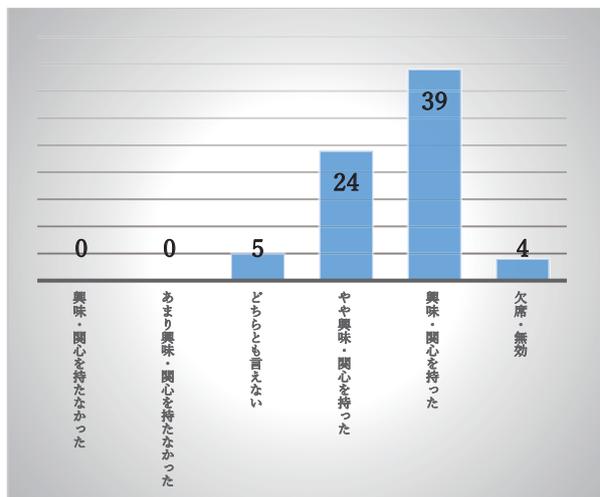


図27 第12回のアンケート回答結果(人数)

<第13回>カットワークとヒートカッター



図28 第13回スライドから抜粋

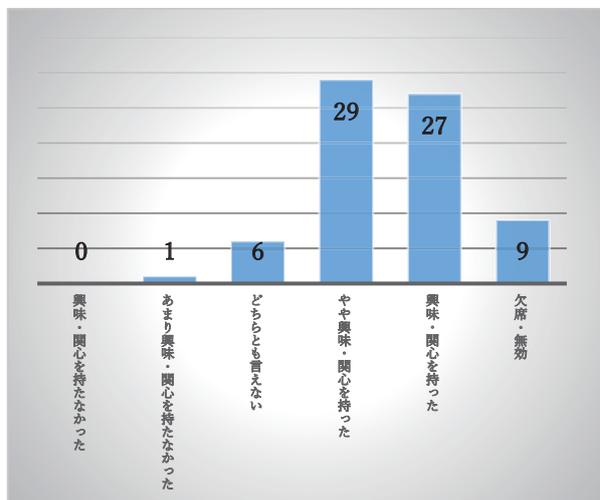


図29 第13回のアンケート回答結果(人数)

<第14回>針供養

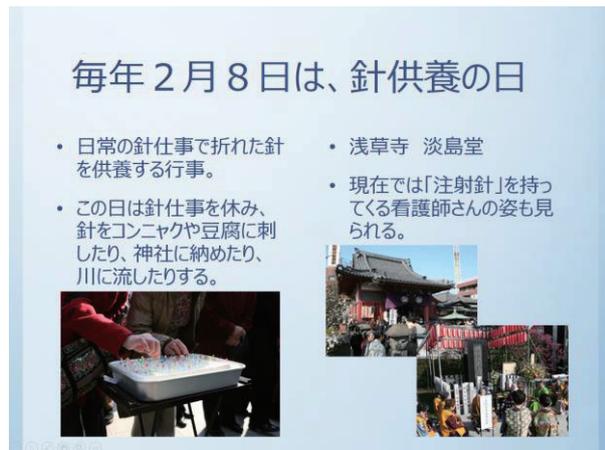


図30 第14回スライドから抜粋

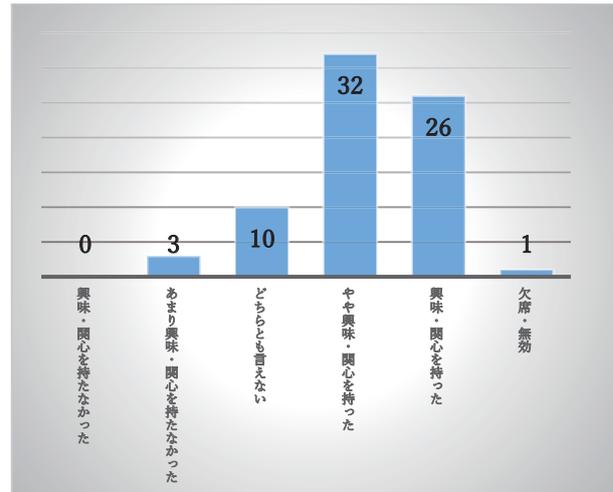


図31 第14回のアンケート回答結果 (人数)

今後聞きたい「小話」の内容については、8項目の質問を行なった。

- ①洋裁用具について聞きたい
- ②生地の種類について聞きたい
- ③パターンの考え方について聞きたい
- ④縫製のテクニックについて聞きたい
- ⑤アパレル企業の仕事内容について聞きたい
- ⑥デザイナーについて聞きたい
- ⑦服飾に関する文化について聞きたい
- ⑧教員の製作した作品について聞きたい

アンケートの5段階評価は、①思わない、②少し思わない、③どちらとも言えない、④少し思う、⑤思うにした。その結果、「⑤思う」「④少し思う」と回答した合計が80%を超えたのは、④縫製のテクニックについて (96%)、②生地の種類について (88%)、③パターンの考え方について (83%)、⑤アパレル企業の仕事内容について (82%) であった。今回は、アパレル企業の仕事内容については1回だけであったため (ファッションジャーナリスト)、就職に向けて準備を始めるためにも話を増やしたいと思った。

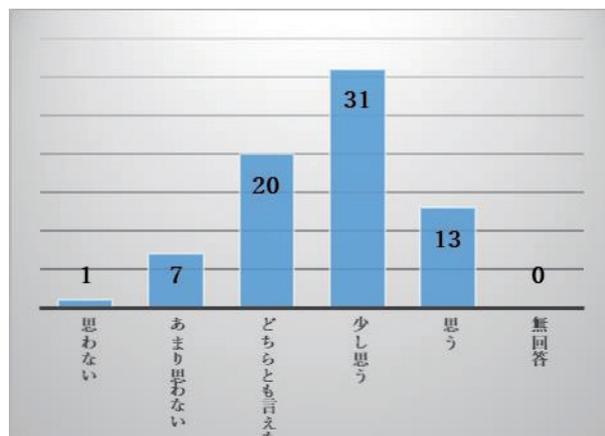


図32 洋裁用具について聞きたい

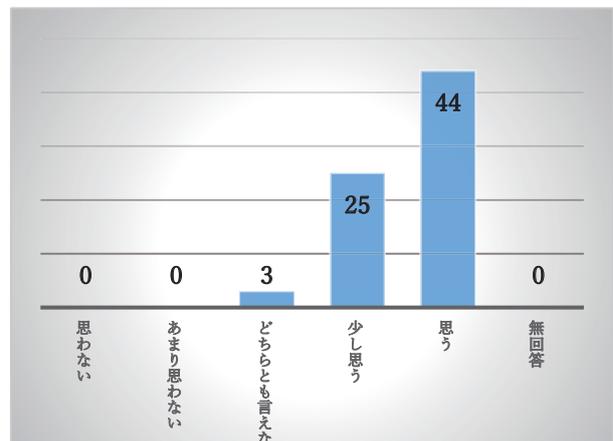


図33 生地の種類について聞きたい

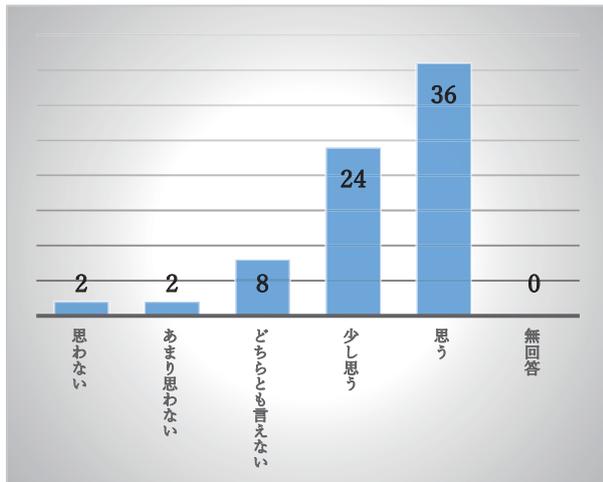


図34 パターンの考え方について聞きたい

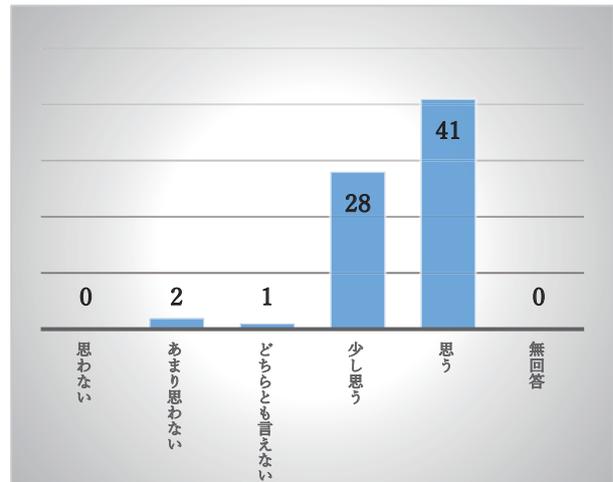


図35 縫製のテクニックについて聞きたい

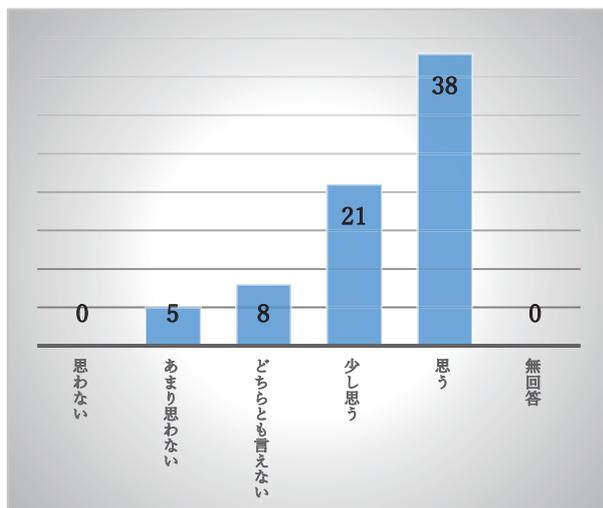


図36 アパレル企業の仕事内容について聞きたい

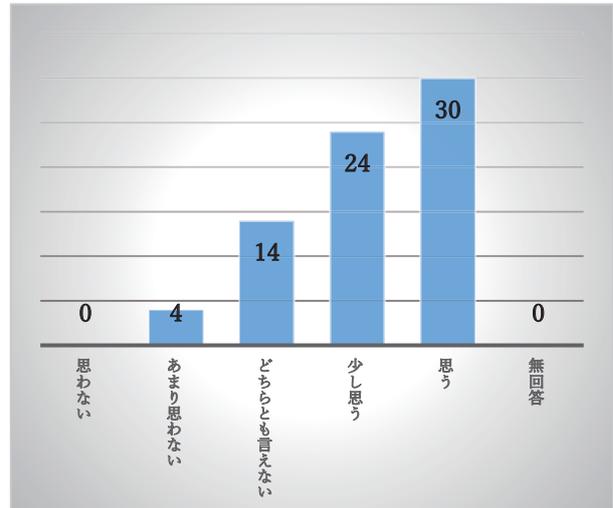


図37 デザイナーについて聞きたい

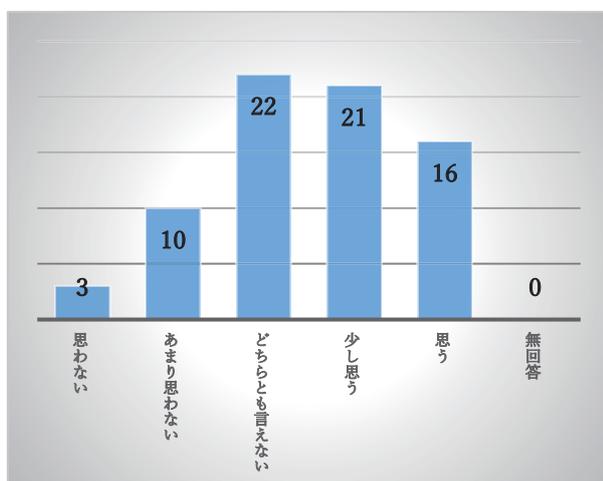


図38 服飾に関する文化について聞きたい

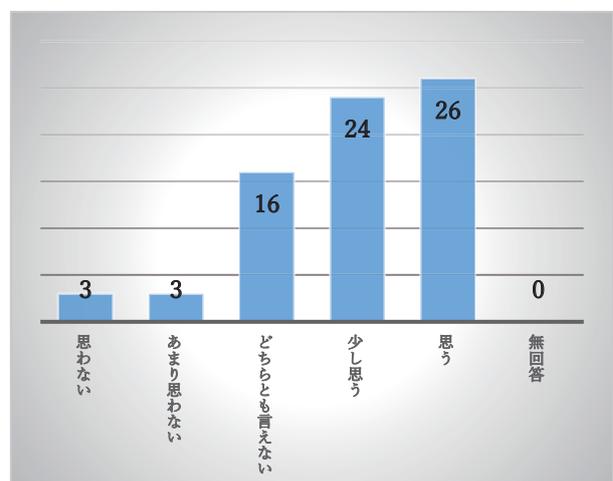


図39 教員の製作した作品について聞きたい

今回、実習時間の5分間を用いて「小話」を行なったことについて6項目について質問を行なった。

- ①実習の最初に行なうことは良いと思う
- ②小話を聞かずに、すぐに実習内容に入りたい
- ③1回の話が長すぎる
- ④話の内容が難しすぎる
- ⑤話の内容に満足している
- ⑥「小話」を聞くことで、洋裁に対し、より興味・関心が深まった

アンケートの5段階評価は、①思わない、②少し思わない、③どちらとも言えない、④少し思う、⑤思うにした。

その結果、①実習の最初に行なうことは良いと思う（少し良いを含む、70%）、②小話を聞かずに、すぐに実習内容に入りたいと思う（少し思うを含む、22%）となり、実習の冒頭に「小話」を行なうことには好意的な回答が多かったと言える。実は、「小話」を実習の冒頭に行なったのには、学生の準備が終わるのを待つ目的があった。洋裁の実習は技術の伝達という要素が強く、受講生が準備を終えてから実習内容に入ることで、実習に集中し、聞き逃し・見逃しがなくなると考えたからである。③1回の話が長すぎると④話の内容が難しすぎるという質問では「あまり思わない」「どちらとも言えない」の回答が多かった。これは、学生の反応を鑑みながら、時間と話の内容を臨機応変に対応した結果と推測できる。その結果、⑤話の内容に満足していると「思う」「少し思う」と回答した学生は81%、⑥「小話」を聞くことで、洋裁に対し、より興味・関心が深まったと「思う」「少し思う」と回答した学生は96%という高い結果を得ることができた。

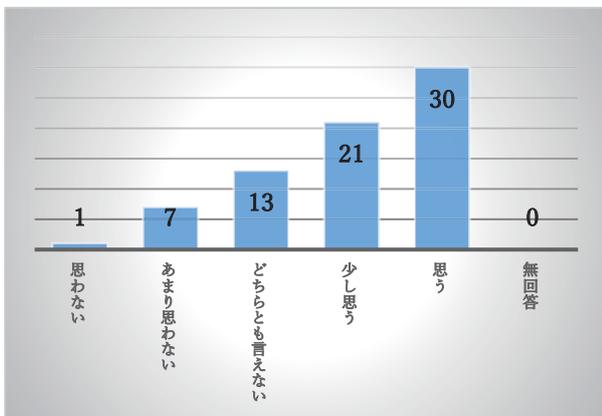


図40 実習の最初に行なうことは良いと思う

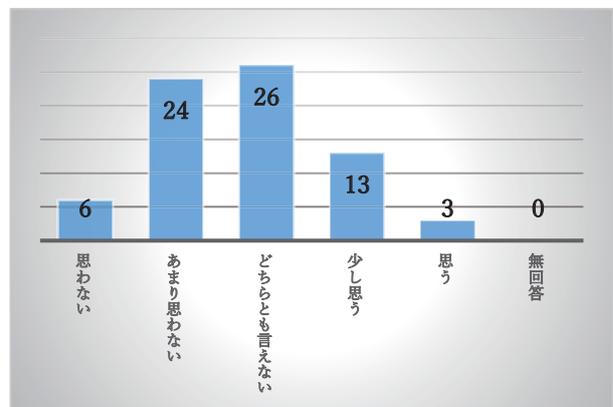


図41 小話を聞かずにすぐに実習内容に入りたい

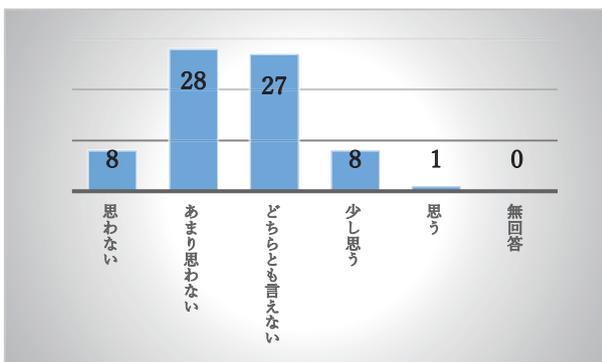


図42 1回の話が長すぎる

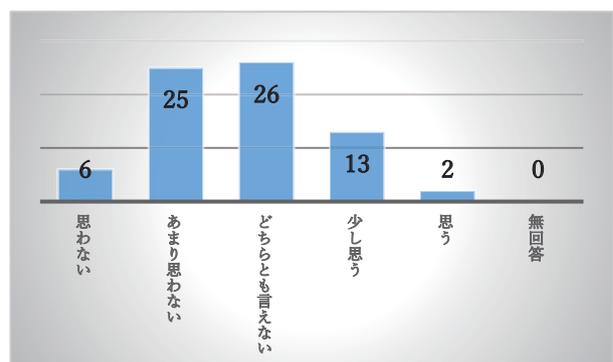


図43 話の内容が難しすぎる

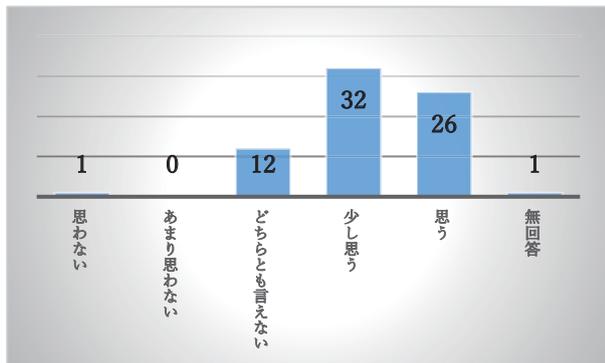


図44 話の内容に満足している

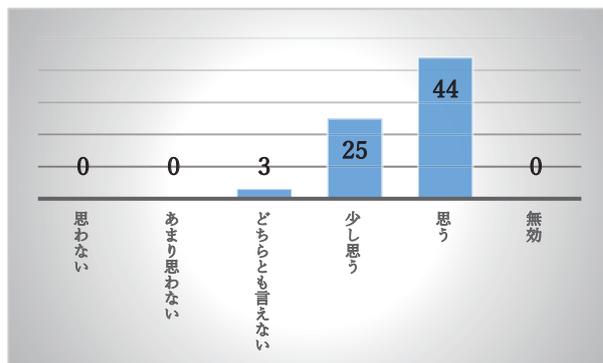


図45 洋裁に対し、より興味・関心が深まった

4. まとめ

実習「服飾造形」におけるアクティブラーニングの成果の向上には、学生自身が洋裁に対して、興味・関心を持つことが不可欠と考えた。そこで、実習時間の冒頭、およそ5分間という時間を用いて、課題の洋服の縫製以外の話として「小話」を行なった。話の内容については、学生の反応を見ながら難易度をかえる工夫を行なった。その結果、「小話」を聞くことで、洋裁に対し、より興味・関心が深まったと「思う」「少し思う」と回答した学生は96%という高い結果を得ることができた。引き続き、学生が洋裁に対し興味・関心を深められるような話題の準備、学生に還元できるような簡単で効果的な縫製方法の研究を実習内容の準備と同様に行なっていきたい。

最後にアンケートにご協力いただいた受講生の皆様に、この場を借りて御礼申し上げます。